

I 調査概要

- ▶ **調査対象**：幹周90cm以上の高木105本
- ▶ **調査日程**：2025年2月、7月、8月
- ▶ **調査方法**：外観診断及び機器診断を実施し、健全度判定を実施。

外観診断：目視と簡易な道具によって樹木の健康を診断する。

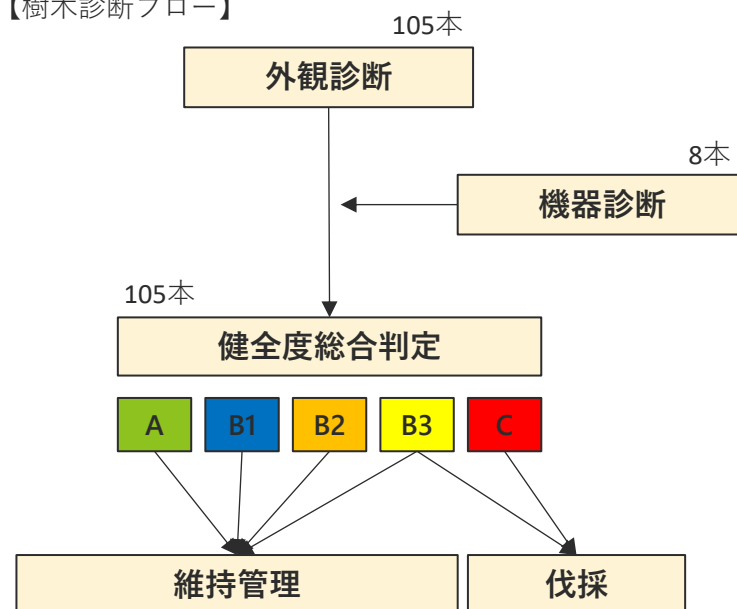
木槌などで幹を叩くナイフで樹皮をわずかに削り材を見るシャベルや鋼棒で根元の材を調べる等の方法により実施。

機器診断：外観診断により樹木内部に著しい腐朽や空洞が存在する、またはその疑いがある樹木について、その程度を数値的に把握するため樹木診断機器により腐朽状態や腐朽量を測定するために実施。

【健全度判定】

A	健全	概ね異常がないもの。
B1	健全に近い	幾分被害は見られるが、その程度は軽微で、当面の間処置が必要ないもの。
B2	概ね健全	活力低下、腐朽の進行が見られ、注意を要するもの。
B3	不健全に近い	B2と比較して、被害の程度が大きく、何らかの処置を必要とするもの。
C	不健全	不健全な状態にあり、今後回復の見込みがないもの、倒木や幹折れの危険があるもの。

【樹木診断フロー】

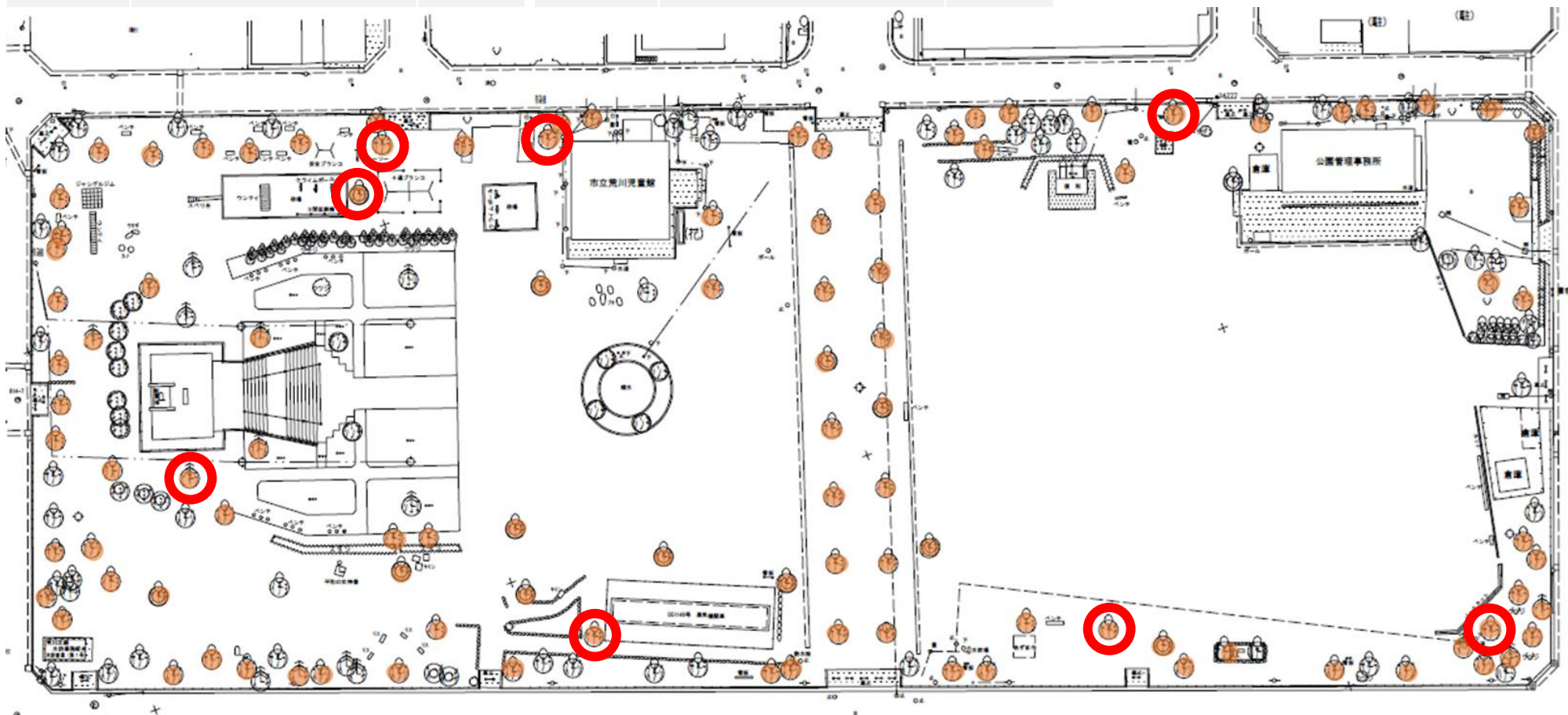


調査対象樹木位置図

種 別	樹木規格	数 量	種 別	樹木規格	数 量
外観診断	幹周60cm以上120cm未満	17本	機器診断	幹周90cm以上180cm未満	2本
外観診断	幹周120cm以上240cm未満	64本	機器診断	幹周180cm以上300cm未満	5本
外観診断	幹周240cm以上	24本	機器診断	幹周300cm以上	1本
	合計	105本		合計	8本

● 外観診断実施樹木：105本

○ 機器診断実施樹木：8本



■ 樹木診断結果

▶ C判定（不健全）の樹木は13本、B3判定（不健全に近い）の樹木は15本あり、両者を合わせると全体の約20%を占める。

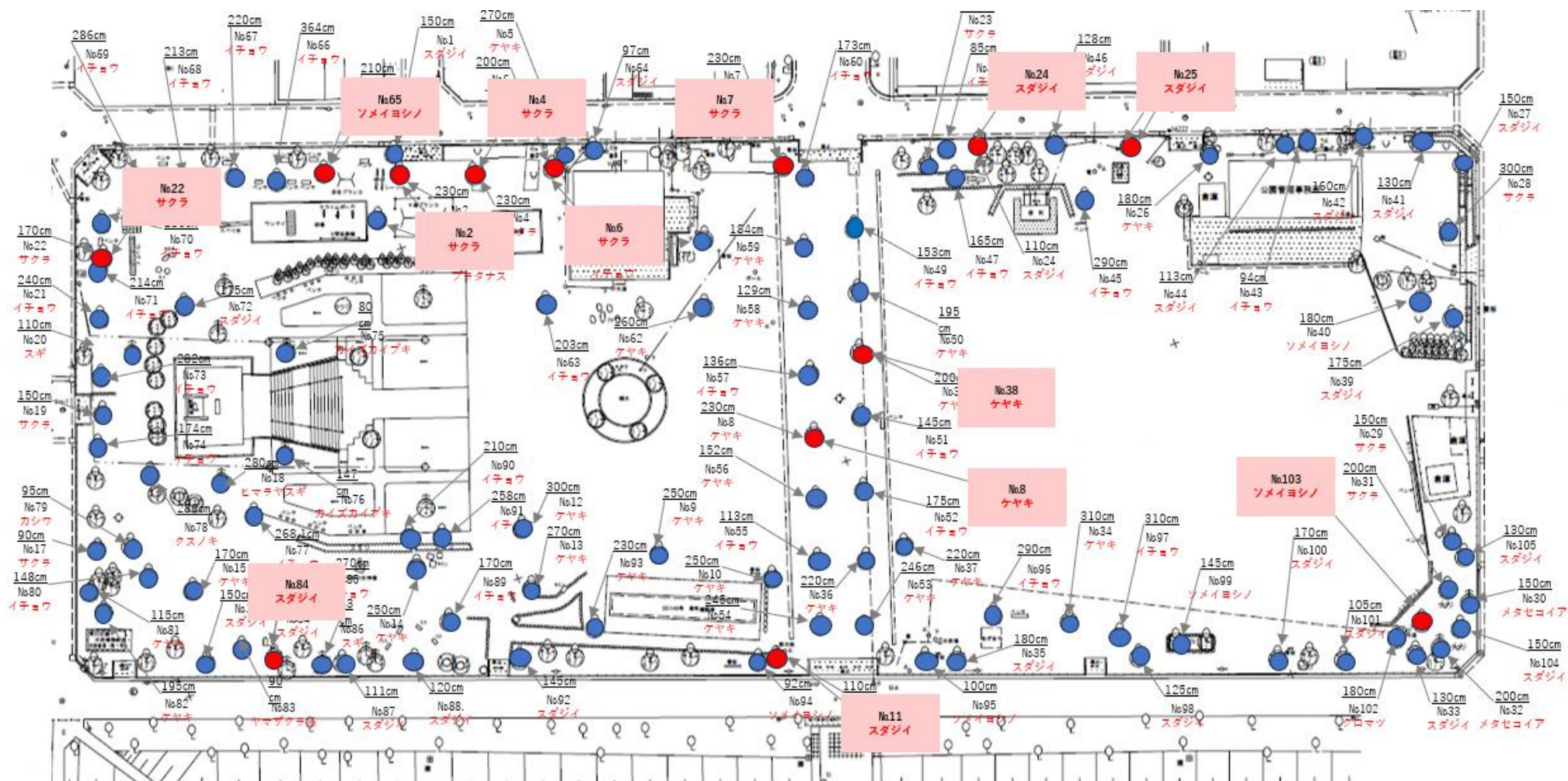
【樹木診断結果総括表】

樹種	健全度判定（総合判定）					
	計	A	B1	B2	B3	C
	本数	健全	健全に近い	概ね健全	不健全に近い	不健全
イチョウ	30	4	9	17	0	0
ケヤキ	22	2	4	13	1	2
サクラ	18	0	0	7	4	7
スギ	2	0	0	1	1	0
スダジイ	24	0	1	11	8	4
プラタナス	1	0	0	0	1	0
ヒマラヤスギ	1	0	0	1	0	0
メタセコイア	2	2	0	0	0	0
クスノキ	1	0	0	1	0	0
カイヅカイブキ	2	0	1	1	0	0
カシワ	1	0	0	1	0	0
クロマツ	1	0	0	1	0	0
	105	8	15	54	15	13
	100%	7.6%	14.3%	51.4%	14.3%	12.4%

A	健全	概ね異常がないもの。
B1	健全に近い	幾分被害は見られるが、その程度は軽微で、当面の間処置が必要ないもの。
B2	概ね健全	活力低下、腐朽の進行が見られ、注意を要するもの。
B3	不健全に近い	B2と比較して、被害の程度が大きく、何らかの処置を必要とするもの。
C	不健全	不健全な状態にあり、今後回復の見込みがないもの、倒木や幹折れの危険があるもの。

健全度C判定（不健全）樹木位置図

▶ C判定の樹木、全13本の位置は下記の赤着色のとおりであり、いずれも伐採済である。



健全度別、樹木位置図

▶ B3判定の樹木・樹種、全15本の位置は下記の赤枠（黄色着色）のとおりである。

